

2年間を振り返って

看護学科第40期

中島 珠

気づけば入学して二年の日々が過ぎていきます。三人の子供を抱えて仕事をしながらの学校生活を送ることに大きな不安を抱えつつ、この学校に入学したことがつい先日のように感じられます。

学習面では、准看護学生の頃と比べて学ぶことの内容は奥が深く、單元ごとのテストの難しさに悩まされました。また、課題の提出やグループワークの資料作りなど、慣れないパソコンを使い、図書室の本を何度も読みながら協力して作成しました。仕事では、看護師として覚えることや学ばなければならないことが多く、緊張の毎日でした。学校と仕事と家庭の両立は簡単なものではなく、家族や職場の方々の協力があり何とかやってこれたと思います。また、学校の先生方は学生一人一人をよく見ていて、いつもと違う様子に気づいて声をかけ、話を聞いてくれたことで救われたこともありました。本当に周りに支えられてここまで来ることが出来たことに、感謝の気持ちでいっぱいです。

そして、同じ目標に向けて学んでいる同級生。年齢も生活の状況も様々ですが、お互いを理解し、励ましあい、協力しながら共に学んでいます。入学直後の人間関係トレーニングをきっかけに距離が縮まり、博愛祭などの行事では協力し合い、仲間との絆を深めていくことができました。

今、私たちは新型コロナウイルスの感染拡大により、授業内容の変更や海外研修の中止など、例年とは違う経験をしています。国際看護の授業では「他国の医療制度を学び、人々の生活への影響について考える」をクラステーマとし、グループごとに様々な国の医療制度について学びました。それにより日本との違いや、看護の対象となる人々の生活の多様性に対する視野が広がり、他者理解を深めることができたと思います。今後の実習なども世の中の状況によりどのようなようになるか予測が付きませんが、学習者としてその状況を真摯に受けとめ、今自分ができる最善を尽くしたいと思います。そして、この学校に入学したからこそ出会えた仲間たちと、有意義な時間を過ごし、笑顔で卒業したいと思います。